

堆積地における復旧方法の検討内容について

1. 背景

厚真町では、胆振東部地震による被災森林の復旧に向け、町が担う多様な役割や課題の対策や復旧方法などの検討を進めるにあたり、専門的な知識を有する者や関係機関で構成する「厚真町森林再生・林業復興検討会議」を令和元年6月に設置した。

令和4年8月の大雨により、特殊地拵え及び植栽が完了した現場の一部において大規模な洗堀が発生したことから、会議の構成である専門家を招聘して関係者とともに現地調査を行い、堆積地における今後の復旧方法や注意点等について意見交換した。

2. 招聘した専門家

北海道大学大学院農学研究院 教授 中村 太士 氏
専門分野 生態系管理学

3. 日程及び参加者

11月6日：事前予備調査（専門家と厚真町）

11月24日：本調査（北海道〔森林整備課、胆振総合振興局林務課、同森林室〕、苫小牧広域森林組合、専門家、厚真町）

4. 現場の状況



大規模に洗堀された現場



今年度特殊地拵えを実施した現場の流路

特殊地拵え実施にあたっての注意点（案）

（1）基本的な考え方

- ・現状の河川地形を重視・尊重する
- ・可能な限り災害前後での地形変化を確認し、流路の安定性の判断を行う
- ・災害後4年間で流路が変わっていない場合、現在の流路は安定化に向かっていると判断する。その際、人為的な流路変更は新たな問題を引き起こす可能性があるため極力やめる。
- ・河川内にある倒木や樹木デブリは、局所洗堀を助長する可能性があるため、極力取り除く。
- ・河川を横断する際は河床路等の活用を検討する（管の使用を避ける）。

（2）流路変動に対する考え方

- ・現行の河岸から3m程度を流路の変動幅として植樹することは避ける。
- ・もしくは河岸から3m程度の範囲に植樹した苗木については、侵食を受けても仕方なしと割り切る。

（3）やってはいけないこと

- ・**河道の大幅変更**：植樹面積を増やすために、流路を斜面脚部に寄せる等の作業は不可。結果として、河道が安定しないばかりか、斜面脚部を洗堀し、斜面を不安定化させる。
- ・**倒木や樹木デブリの河道等への集積**：河川内、もしくは近傍に向けた整地作業を行わない。倒木が局所洗堀を助長し、河道侵食を促進、深掘れしたキャニオンの地形をつくる。長期間にわたって河道の安定を妨げる。
- ・**流域内の堆積土の大幅な形状変更**：流域の上流から下流に向けて土砂を移動させることで、下流の堆積土の終点付近に大きな高低差を生み、結果として深掘れによるキャニオンの地形をつくる要因となる。
- ・**カルバート暗渠の設置**：流木や樹木デブリが流れてきた場合、穴を塞ぎ、行き場を失った水が周辺を侵食し、大規模侵食、流路変動をもたらす。

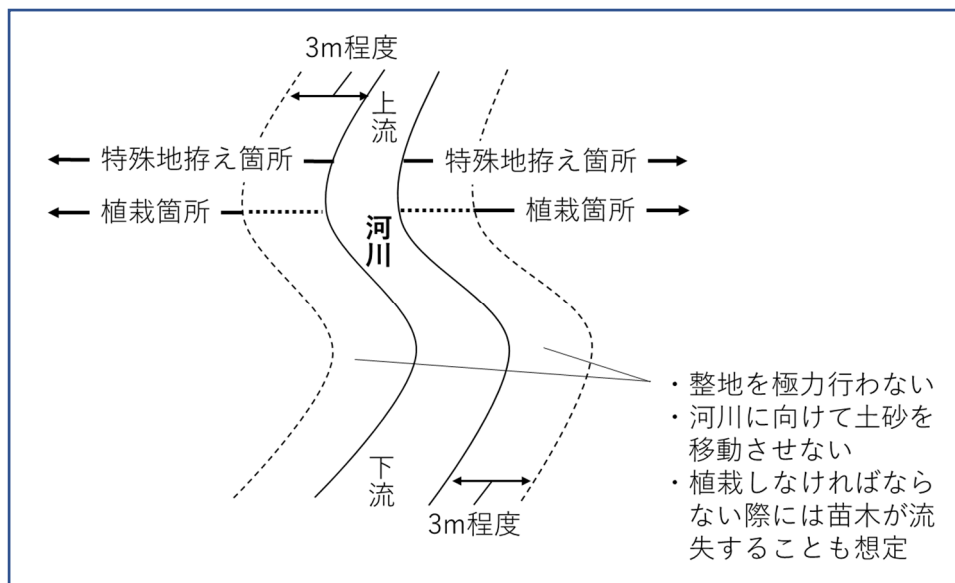


図 河川と特殊地拵え・植栽の関係図